風水害

雨の強さと降り方、災害発生の目安

1時間雨量(mm)	10以上～20未満	20以上～30未満	30以上～50未満	50以上～80未満	80以上～
予報単語	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
人の受けるイメージ	ザーザーと降る	どしゃ降り	バケツをひっくり返したように降る	滝のように降る（ゴーゴーと降り続く）	息苦しくなるような圧迫感があり、恐怖を感ずる
人への影響	地面からの跳ね返りで足元がぬれる	傘をさしていてもぬれる		傘は全く役に立たなくなる	
屋内（木造住宅を想定）	雨の音で話し声がよく聞き取れない	寝ている人の半数くらいが雨に気がつく			
屋外の様子	地面一面に水たまりができる		道路が川のようになる	水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる	
車に乗っていて		ワイパーを速くしても見づらい	高速走行時、タイヤと路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなる（ハイドロプレーニング現象）	車の運転は危険	
災害発生状況	この程度の雨でも長く続く時は注意が必要です。	側溝や下水、小さな川があふれ、小規模のがけ崩れが始まります。	山崩れ・がけ崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要。都市では下水管から雨水があふれます。	都市部では地下室や地下街に雨水が流れ込む場合がある。マンホールから水が噴出する。土石流が起こりやすい。多くの災害が発生します。	雨による大規模な災害の発生するおそれが強く、厳重な警戒が必要です。

大雨の際の危険箇所

◇地下室

大雨のときは危険なので、早めに退避しましょう。

①地上が冠水すると、一気に地下の方へ水が流れ込む。



②浸水すると電灯が消え、エレベーターも使えなくなる。



③流れ込む水圧で、ドアが開きにくくなる。



④地下では地上の様子がわからない。



◇アンダーパス

鉄道の下など路面が低くなっているところは、水のたまる恐れがあるので、車で入らないようにしましょう。浸水・冠水の危険を感じたら、速やかに車を高台に移動させましょう。



◇川

急に空が暗くなり、雷が聞こえ始めたら、急激に増水する恐れがあるので、川に近付かないようにしましょう。

風水害

避難のポイント

外出が危険なときは、家の2階などの少しでも安全な場所に移動する。(垂直避難)



避難前に、ガスの元栓やブレーカーを切り、火の始末や戸締りをする。



いざという時、居場所を知らせるために、笛(ホイッスル)を持っておく。



非常持出品は必要最低限にとどめ、背負って、両手は自由に動かせるようにする。



長靴は水が入って歩きにくく危険。裸足も禁物。運動靴をはく。



道路冠水時は、側溝、水路、マンホール(ふたが外れている可能性がある)、坂道(水深が浅くても水の流れが速い)、ため池などが危険。



橋を渡らないようにする。



足元が見えないことが多いので、よく通っている道でも道路の真ん中を慎重に歩く。



先導の人は窪みや溝を確かめるため、長い棒を杖にしながら歩く。



2人以上で避難する。家族はロープでつながって避難する。



流水や冠水の中で歩ける水深は、膝ぐらい(男性70㎝、女性50㎝程度)までが目安になる。それ以上なら無理をせず、高い所で救助を待つ。



増水したら、子どもは浮き袋に乗せ、乳幼児はベビーバスを船のように使う。



自動車はもちろん自転車での避難も危険なので、必ず歩いて避難する。



田んぼや畑の見回りは避ける。



垂れ下がった電線には触らない。



隣近所に声をかけて助け合いを大切にする。

病人や歩行困難な人に対しては特に配慮が必要。



竜巻・落雷から身を守るために!

近年、竜巻や落雷といった災害が増加傾向です。発生する要因を知り、すみやかに避難できるようにしましょう。

◆“発達した積乱雲”に注意!

竜巻・落雷とも台風・寒冷前線・低気圧などにより“発達した積乱雲”に伴って発生します。

兆候

- 真っ黒い雲が近づき、周囲が急に暗くなる
- 雷の音が聞こえてくる
- 急に冷たい風が吹いてくる
- 大粒の雨やひょうが降りだす

◇竜巻

日本では、平均して年に51個程度(2007~2024年、海上竜巻を除く)の発生が確認されています。一度発生すると家屋の倒壊や車両の転倒、飛来物の衝突などにより短時間で大きな人的・物的被害をもたらすことがあります。



<避難のポイント>

- 近くの頑丈な建物に避難する。
- 飛散物から身を守れるような物陰に身を隠し、頭を抱えてうずくまる。
- 窓や扉、部屋の隅や外壁から離れ、頑丈な机の下に入り、両腕で頭と首を守る。

◇落雷

雷は積乱雲の位置次第で、海面、平野、山岳など場所を選ばず落ちます。また周囲より高いほど落ちやすいという特徴があります。



<避難のポイント>

- 雷鳴が聞こえたら、すぐに建物の中や自動車の中に避難する。
- 避難する建物がない場合は、電柱や木から4m以上離れて、身を低くする。